

平成２９年度清水町いきいきふるさとづくり

寄 附 報 告 書



目 次

・ 町長挨拶	2 p
・ 平成 2 9 年度 清水町のできごと	3 p
・ アイスホッケーでまちづくり	7 p
・ 第九でまちづくり	8 p
・ 基金を活用して行う事業	1 0 p
・ 平成 2 9 年度の寄附概要	1 1 p
・ 平成 2 9 年度寄附者の方々	1 2 p
・ 平成 2 9 年度基金を活用した事業	1 5 p
・ おわりに . . .	1 5 p

初夏の候、町民の皆様、そして本町のまちづくりに対して、ふるさと納税によりご寄附をいただいた方々におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げますとともに深く感謝申し上げます。

昨年の清水町は災害復旧・復興の1年でありました。国道274号線の日勝峠の開通、38号線の2つの橋梁の完全開通の他、町道に架かるすべての橋梁の開通など主要な交通網のほとんどが復旧したところではありますが、残念ながらペケレベツ川にかかる4つの橋梁については、平成32年3月開通の見通しとなっています。

また、被害を受けた115haの農地におきましても、すべての圃場が復旧し、作付が再開されております。昨年の清水町農業は好天にも恵まれ、過去最高の生産高を獲得し、農業関連産業や土木など災害復旧関連産業の盛況もあり、清水町は災害前の元気を取り戻してきました。

さて、平成29年度は、8年振りの第九合唱が大成功に終わりました。さらに、小学校2校、中学校2校のチャイムが第九のメロディに変更されました。教育の分野において日常から第九のメロディに親しみ、第九の文化や精神を次世代へ継承していくことを目的としています。今後も本町の誇りである第九の歴史を絶やすことなく、「第九のまち清水」の発展と振興に繋がる事業に取り組んで参ります。

本町においても少子高齢化が急速に進んでおり、人口は9,500人を切りましたが、安心して子育て、教育ができる環境づくりや移住・定住対策等を積極的に取り組むとともに、伝統あるアイスホッケーを中心としたスポーツのより一層の推進を図りながら、人口減少対策を進めて参ります。本町の取り組みにおいて、皆様のふるさと納税によるご支援が大きな支えとなっております。

あらためて皆様のご支援、ご厚情に心より感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、お礼のご挨拶といたします。

平成30年6月

清水町長

阿部一男



平成29年度 清水町のできごと

4月



4月22日、役場地下大会議室において「平成29年度町内会長・農事組合長・自治会長会議」が開催されました。

主に昨年の台風10号災害の今後の復旧・復興の状況や見通しなどについて議論が交わされました。

町は、町民と対話を重視した上で検討し、復旧・復興の対応を進めていくことを確認し閉会しました。

5月



5月10日～16日にかけて、町地域農業再生協議会主催のファームスクールが、JA農産加工施設横の畑で行われました。この事業は、直に土に触れる体験を通じて、収穫の喜びを知ってもらうことを目的に毎年行われています。

園児たちは、じゃがいもの種いもとスイートコーンの種をおおきなあれと唱えながらやさしく丁寧に植えていました。

6月



6月4日、十勝若牛®アスパラまつりが開催されました。町内外問わず大勢の人たちが新鮮なアスパラを求め先頭の方は朝の8時から並んでいたそうです。当日用意されていたアスパラは1.5トン。

広場には炭火で焼ける台が設置されており、焼き台を使ってアスパラや十勝若牛を焼き、小さな子どもから大人まで旬の味覚を味わいました。

清水町では1年を通して、様々な取り組みが行われました。
十勝若牛®アスパラまつりをはじめ、町外にお住まいの方に楽しんで頂ける
イベントも開催しております。お近くにお越しの際は、ぜひ一度お立ち寄り下さい。

7月



7月16日、実行委員会主催のみ
かげふえすていばるinナイトが御
影公民館駐車場で開催されました。

バトンクラブ、フラ・ハイビスカ
ス御影のステージ披露や花火の打
ち上げもあり会場は大盛り上がり。
長蛇の列ができた恒例のおもて牧
場による十勝若牛1頭分(約1,000
食)の無料提供や、山女魚の塩焼き、
焼き鳥、コロッケ、ハンバーガーな
どたくさんの出店が並び、地域の方
々など御影の夏の夜を堪能されま
した。

8月



道内を中心に活動するプロレス
団体「北都プロレス」が8月22日
町農業研修会館で町の復興支援と
して迫力ある大技と笑いの戦いを
繰り広げました。昨年の台風災害の
支援として金銭面でも精神面でも
協力したいと開催が実現。レスラー
VS子ども達のちびっ子プロレスも
あり、訪れたプロレスファンや無料
招待された台風災害の被災者など
120人の大歓声で会場は熱く盛り
上がりました。場内での募金と入場
料の一部が町に寄付されました。

9月



御影保育所園児20名が、りんご
の収穫体験をしました。

この日収穫したのは、「つがる」
と「いずみ」の2種類。楽しみにし
ていた子ども達は、背伸びをなが
ら楽しそうに手のひらいっぱい
の大きさのりんごを収穫しました。

収穫した新鮮なりんごはその場
で田中さんが切り、園児たちに振舞
われました。2種類のりんごを食べ
比べ、秋の味覚を満喫しました。



10月



「彩～清中生の思いを歌に～」をテーマに10月1日に開催された清水中学校文化祭は、全校第九合唱から始まりました。復興への願いと、ありのままの今の思いを歌に乗せ、心ひとつに奏でられた学年合唱やクラス合唱は会場の多くの観衆を魅了しました。

趣向を凝らした学級発表では笑いに包まれ、演劇や吹奏楽部演奏、作品展示など日頃の学校生活での成果を存分に発揮しました。

11月

「四季」子どもフォーラム



11月28日に第11回しみず「教育の四季」子どもフォーラムが開催されました。町内小中学校と清水高校の児童会・生徒会の取組について発表の後、「町の将来像について考える」をテーマに意見交流が行われました。「この町には都会にはない、人と人との繋がりがある」と、町の魅力を再発見する児童生徒ならではの意見が交わされました。これからは皆で知恵を出し合い、住みよい町を町民総ぐるみで築くことを参会者一同が確認をしました。

12月



12月2日、約70人の参加の中、清水高校の総合学科を考える集いが開催され、在校生や卒業生のパネルディスカッションが行われました。在校生は学校説明と総合学科で学んでいる自分達の姿を発表。卒業生はパネルディスカッションを行い、「早い段階で、自分が打ち込める明確な目標や目的を持って。」などと自らの経験をもとに語りました。これからの清水高校を語る座談会も行われ、わが町の総合学科「清水高校」への理解を深めました。



1月



1月1日、アイスアリーナにおいて毎年恒例の新年氷上まつりが開催されました。

リンクで初滑りが行われた後、氷上でのみかんやお菓子拾い、長靴アイスホッケー、ストラックアウトなどの催しを集まった人たちで楽しみました。

参加者全員によるお楽しみ抽選会も行われ、元旦から大いに盛り上がりました。

2月



2月3日御影スケートリンクで、自己記録の更新や地域のスケート競技振興の向上を目指し、町民スケート大会が開催されました。

この日は絶好のスケートコンディションで、リンクサイドに詰め掛けた父母などから大きな声援を受け、全力で滑走。オープンリレーには職場単位やスケート少年団の父兄、町内教職員らが出場し、オリジナルのTシャツやバトン代わりに花を持つなど趣向を凝らした演出で会場を大いに沸かせていました。

3月



3月16日、JR根室線の羽帯駅は60年間の歴史に幕を下ろしました。

午後4時台の上下線最終停車に合わせて開催された町観光協会主催の「さよならイベント」には地元住民や町内外からの鉄道ファンら100名余りが詰めかけました。

記念グッズや町の特産品の販売のほか、「羽帯駅60年間ありがとう」と書かれた横断幕を掲げ、思い出が詰まった車両や駅舎に手を振り感謝と別れを伝えました。

アイスホッケーでまちづくり

基金を活用して行う事業の一つでもある、アイスホッケーを通してのまちづくり。本町の特徴的なスポーツであるアイスホッケーの歴史や、アイスホッケーチームの各種大会実績などをご紹介致します。

本町のアイスホッケーの歴史は、アイスアリーナが建っている御影からはじまりました。昭和 12 年、御影小学校に赴任した加藤光也教諭が、割った竹を布で包んだスネ当てのみをまとったアイスホッケーチームを結成しました。帯広大会に遠征するまでになりましたが、戦争の時代に入り一時期立ち消えとなりました。加藤教諭が御影中学校長として再赴任した昭和 24 年、再びアイスホッケーの活動が始まります。校庭近くの川の水で 10 メートル四方ほどのスケートリンクを初めて造成し、アイスホッケーのまちの歴史は、ここから刻みはじめます。

その後リンク造りは歴代校長や仲間に引き継がれ、昭和 30 年に御影中学校アイスホッケー部が創部されました。昭和 35 年から昭和 36 年の十勝大会を連覇し、常勝チームとして君臨します。昭和 41 年には、清水高校アイスホッケー部が 4 大十勝大会で四冠を達成し、華々しいデビューを飾りました。平成 16 年に念願の全道初優勝を果たし、その年のインターハイ北海道予選も制覇しました。インターハイ本選では準優勝。高校アイスホッケーの歴史が始まって以来、苫小牧や釧路勢からその栄冠を初めて十勝にもたらしめます。昭和 47 年に結成された社会人チーム「御影クラブ」は、昭和 49 年の全道大会 B ブロックで初優勝。昭和 62 年に結成された「御影グレッズ」は平成 26 年に全道優勝、平成 28 年に全日本女子選手権大会準優勝と、いずれもアイスホッケーのまちを代表する強豪チームへと成長していきます。



平成 4 年には、町村では全国で初めての屋内リンク「清水町アイスアリーナ」が御影に建設されます。床面のパイプから冷却し、氷面をつくるパイピング方式の公式リンクには、電光掲示板、控室、トレーニングルームが設置され、2 階部分は 198 席の観客席があります。アリーナの建設がきっかけとなり、社会人チームが次々と誕生しました。現在では、子どもから大人まで町内 20 チーム、約 450 人の町民がアイスホッケーを競技しています。近年、少子化や他スポーツ

環境の充実などからアイスホッケーの競技人口は減少の一途をたどる中、アイスアリーナの指定管理者である NPO 法人清水町アイスホッケー協会は、更なる普及と発展を目指しています。

本町ではアイスホッケーの裾野拡大の為、様々なイベントや教室を開催しています。毎年元日に行われる御影の伝統行事「新年氷上まつり」ではスケートを通して多くの町民が交流を深めます。リンクで初滑りが行われた後、氷上でみかんやお菓子を拾い、長靴アイスホッケーにストラックアウトなどの催しを楽しみます。参加者全員によるお楽しみ抽選会も行われ、元旦から大いに盛り上がるイベントとなっています。

また、心身の鍛錬と高度な技術習得の為、幼年から中学3年生が所属する十勝ジュニアアイスホッケークラブを設立しています。幼年の部では、楽しく手軽にアイスホッケーに触れられるよう、必要な防具を40人分用意。これまで学んできた選手は総勢180人を超え、実業団出身者が名を連ねる指導者の地道な努力で、清水御影アイスホッケー少年団や、本町アイスホッケーチームの先駆けとなった御影中学校アイスホッケー部は全十勝A(清水、芽室、新得の連合チーム)



として、全道全国に名を馳せる強豪チームへと成長を遂げています。清水高校アイスホッケー部は平成17年にインターハイで準優勝、平成20年北海道高等学校アイスホッケー選手権大会で優勝を果たすなど、「アイスホッケーのまち清水」を全国に発信しています。近年では、清水高校からU18世界選手権の選手が2名選出されています。



平成30年2月に韓国で開催された平昌冬季オリンピックでは、本町から小野粧子選手と近藤真衣選手の2名が女子アイスホッケー日本代表に選出されました。本町から冬季オリンピック選手が誕生したのは、初めての快挙です。「アイスホッケーのまち」として、新たな歴史が刻まれた瞬間でした。

2月9日から13日までの5日間、町の応援団として8名の町内女子中高生達が、平昌冬季オリンピックへ派遣されました。いずれも御影グレッズのメンバーで、チームメイトの小野選手と近藤選手と一緒に戦う気持ちで観客席から大声援を送りました。世界トップレベルの試合は彼女達のとても良い刺激となり、自らの今後の夢を大きく膨らます絶好の機会となりました。御影公民館で開催されたパブリックビューイングでは、連日100名以上のアイスホッケーファンが集まり、現地韓国まで届かんばかりの大声援を送り続けていました。

数々の熱戦が繰り広げられる舞台は、生涯スポーツの場であり、ホットな町民の交流の場でもあります。先人の思いを受け継ぎ、情熱を持ってアイスホッケーに取り組み、「支える人」「育てる人」「進化する人」がこの町にはたくさん存在します。こうしたアイスホッケーによる青少年の育成や異世代の交流は、本町のまちづくりの特徴です。清水町いきいきふるさとづくり寄附では、幼児、小中学生、高校生、一般のチームの育成強化や各種大会の開催、出場への支援などに基金を活用しています。

第九でまちづくり

本町のまちづくりの基軸のひとつとして、「第九」の存在があります。昭和 55 年に初めて交響曲第九演奏会が開催されて以来、様々な関連事業を行ってきました。「第九」という文化は教育の場にも根付き、子どもたちは幼稚園や保育所でドイツ語の第九を歌えるようになります。大人から子どもまで多くの町民が同じ歌を口ずさめる程、町民にとって馴染みの深い曲となっています。



本町では大正時代から、多くの団体やサークルが多種多様な活動を続けてきました。その集大成となるのが、昭和 55 年に清水町文化センターが建てられた際に、初めての催しとして開催された「交響曲第九演奏会」です。演奏会へ向けて、ほとんどが素人の町民合唱団が結成されました。年齢や職種関係なく、合唱団は毎晩のように集まって必死に練習を重ねました。ベートーヴェンの交響曲第九は、声楽を学んだ者や一流の合唱団しか歌うことが出来ないと言われています。その様な常識を覆し、町民 204 名の歓喜の魂の歌は多くの人たちに感動を与えました。この演奏会をきっかけに「第九のまち清水」として、全国へその名が広く知られるようになりました。それ以来、演奏会は 5 年ごとに開催され、平成 22 年に第 7 回目を迎えました。町民の文化に対する情熱とエネルギーは、昭和 55 年から約 30 年を経過してもなお連綿と受け継がれています。

平成 25 年には、初の試みである「第九のあゆみ展」が開催されました。より多くの方々に第九について知って頂く為に、歴史ある懐かしい品々が展示されました。第九やベートーヴェンについて理解を深められるコーナーや、来場者の方々に書いて頂いた第九への想いを展示するコメントツリーのコーナーなども設けられ、第九を知っている人も知らない人も楽しめる展示会場となりました。会期中には清水高校の第九合唱や、清水幼稚園の子どもたちが第九を披露。最終日はせせらぎ合唱団のコンサートで締めくくられました。「第九のあゆみ展」は、町内外から約 900 名の方々が足を運んで下さいました。

また、平成 30 年 1 月 28 日に清水町文化センターで開催された、北海道農民管弦楽団による定期演奏会にて、台風被害からの復興を胸に結成されたペケレバツ合唱団による「第九」の合唱が行われました。町民や十勝管内在住の合唱愛好者を中心に、小学生から 80 代までの約 190 名がステージに立ち、農民管弦楽団の演奏で第九を高らかに歌い上げました。苦悩を乗り越えた先にある未来への希望に満ちた「歓喜の歌」は、800 人余りの観衆の心に深く響き渡りました。

今後も第九の文化や精神性を次世代へ継承していく為、多くの町民がより第九を身近に感じられるような「新たな第九」の在り方・方向性を見据えた事業を推進していきます。清水町いきいきふるさとづくり寄附では、第九演奏会をはじめ、展示会の開催などに基金を活用させていただきます。

基金を活用して行う事業

基金を活用して行う事業として、清水町では5つの事業を挙げています。ふるさと寄附を通して積み立てた基金は、寄附者の皆様の指定する次の事業に活用させていただきます。



(1) 第九のまちづくり事業

第九によるまちづくりの文化は、昭和55年から現代に至るまで受け継がれてきた本町の伝統です。演奏会や合唱祭の開催、展示会の開催、からくり時計の維持など、第九に関連する事業に活用します。



(2) アイスホッケーのまちづくり事業

アイスホッケーによる青少年の育成や異世代の交流は、本町のまちづくりの特徴です。幼児、小中学生、高校生、一般のチームの育成強化や各種大会の開催、出場への支援などに活用します。



(3) 次代を担う子どもたちの健全育成事業

子どもたちが心身ともにいきいきと学び、遊べる環境づくりや、地域全体で育てていく環境づくりを行います。具体的には、少人数学級の推進、児童図書の充実、放課後子どもプランの実践、地域の見守り活動の支援、子育て支援事業の充実などに活用します。



(4) 森と水・景観の保全事業

日本の食糧基地である十勝・清水町での安全で安心な農業の推進や、本町の森やきれいな水を守る活動を行います。きれいな水を守る環境の保全、クリーン農業の推進、桜並木や農村風景の維持保存、町内の遺産的価値のあるものの発掘と維持保全などの活用を想定しています。



(5) 花で彩るまちづくり事業

町内を花で飾り、来町する方々へのおもてなしの心を表現します。具体的には、シーニックバイウェイ「十勝平野・山麓ルート」沿線への植栽や、町内各所の花壇の整備、公共空間への植栽などに活用します。

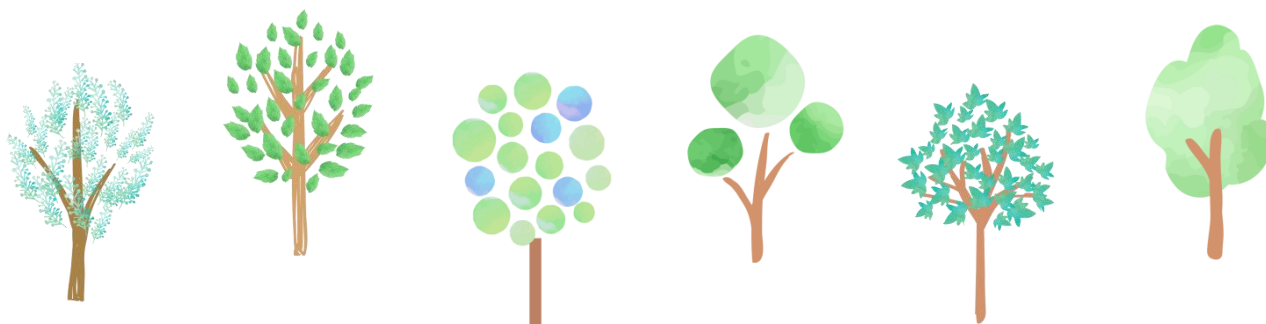
平成 29 年度の寄附概要

『清水町いきいきふるさとづくり寄附条例』の制定から、10 年目となる平成 29 年度は、3,928 名の方々から総額で 60,103,610 円の寄附をいただきました。

第九のまちづくり事業	161 件	2,163,000 円
アイスホッケーのまちづくり事業	196 件	4,053,000 円
次代を担う子どもたちの健全育成事業	1,274 件	18,227,000 円
森と水・景観の保全事業	703 件	9,402,000 円
花で彩るまちづくり事業	81 件	854,000 円
指定なし	1,513 件	25,404,610 円
合計	3,928 件	60,103,610 円

また、平成 20 年度の寄附受付開始からの累計額は以下のとおりです。

第九のまちづくり事業	523 件	7,657,000 円
アイスホッケーのまちづくり事業	612 件	18,848,000 円
次代を担う子どもたちの健全育成事業	4,047 件	60,236,816 円
森と水・景観の保全事業	2,411 件	34,493,000 円
花で彩るまちづくり事業	278 件	3,581,158 円
指定なし	5,358 件	88,909,750 円
合計	13,229 件	213,725,724 円



平成29年度寄附者の方々

※公表希望者のお名前の掲載については、ご本人の了承を得たご寄附のみ対象としています。

※掲載は敬称略・順不同となっております。

◆100万円

宇野 英二

◆60万円

原 幸一郎

◆35万円未満30万円以上

向井 洋平、檜山 孝美

◆30万円未満15万円以上

原 周平、佐藤美知雄、鈴木 徹、新井 大介、原 拓平、原 正子

◆15万円未満5万円以上

門脇 孝雄、畑川祐一郎、杉森 四郎、菅 富士郎、澤田 司、下山 学章、中川 信喜、
新田 恭久、木村 英助、奈良坂 浩、木村 隆子、藤井 陽介、村上新一郎、新田 恭久、
加藤 裕世、加藤 裕世、加藤 裕世、原 有佳里、佐藤 克巳、加地 榮一、奈良坂 浩、
富重 博、新田 恭久、本田 浩一、樋爪 明雄、新田 恭久、木村 英助、株式会社 福原、
サントリーフーズ 株式会社、サントリー酒類 株式会社、

◆5万円未満2万円以上

岩野 亨、木戸 浩貴、金野 アリーポラデー、永井 清孝、西田 透、加藤 裕世、
葉山 武志、松永 有史、田中 裕人、石田雄一郎、大塚 淳、中野 健司、井上 晃、
中村 賢治、大谷 洋史、大塚 啓明、菅野 一之、東谷 良昭、志村 修、吉田 紘、
福元 貴志、古屋 博明、中原 淳、葉 紹誠、太田 好啓、中原 淳、松山 光男、
田村 智之、楠見 節子、高橋 誠志、織本 幸、飯田 知弘、前原 康延、大谷 雅実、
吉川 弘一、中原 淳、須賀 洋子、寺西 克己、加我 仁信、早坂 泰、菅野 真樹、
木幡 徹、尾崎 道孝、島崎 昭三、天沼 久恵、大塚 政彦、鈴木 秀昭、肥田 明義、
赤堀 聡彦、赤堀茉莉香、北 光之、吉岡 鉄也、小野 聡、中島 輝久、吉田 潤、
長谷川 聡、高坂 久夫、鈴木 猛、黒川 真、西村 友和、清田 宜也、大尾 泰裕、
岩谷 隆広、北野 泰、腰塚 学、戸田 行雄、野村 泰二、長村 知幸、吉田 直樹、
近藤 勉

◆2万円未満1万円以上

宮崎 義隆、大江 一明、佐藤 幸宏、池田 憲孝、徳山 舞、北村 真吾、野澤 重幸、
池田 政治、樋詰 透、田仲 康史、齊藤 英明、石田 正、佐藤 陽子、李 源鎬、
大野 智之、秋元 正巳、松山 智輝、本郷 義之、高倉 聖哉、松岡 征二、田中 憲次、
窪田 亮、土坂 祐平、小林 礼子、池山 宗良、高橋 学、鈴木 一平、加納 順子、

中野 健司、	今野 知帆、	韓 惠源、	熊谷 哲也、	高田英一郎、	田野井 正、	本庄三知夫、
三宮 信秀、	新沼 正美、	千葉 大輔、	山田 正憲、	金田 英幸、	河野 真也、	菊地 吾朗、
吉川 陽介、	古川 文将、	國奥みどり、	武部 實、	笹倉 準、	山本 進、	田鎖 健一、
高野 学、	久永 貴男、	西沢 俊之、	西沢 俊之、	出口 義男、	別府 正幸、	別府 正幸、
藤坂 和則、	田鎖 健一、	武部 實、	千葉 正樹、	中村 英樹、	宗實 亮、	三林ウメ子、
遠藤 謙吾、	大和 隆史、	楠 孝幸、	山本浩仁郎、	鈴木 亘、	日比野 暢、	飯盛 陽介、
村見 佳幸、	西本 頼一、	太田 淳一、	岡嶋 徹、	宮部 俊行、	勇田 竜二、	駒見 太郎、
雨水 誠治、	伊藤 隆、	加我 仁信、	山口 洋子、	河野 成泰、	廣井 淳二、	山脇 克彦、
佐藤 左恭、	塚本 一貴、	佐藤 文子、	岡 翔一、	谷奥恵美子、	小林 智幸、	渡部 陽、
瀬戸 優之、	瀬戸 優之、	前田 雄一、	竹本 史、	長谷川 信、	田島 稔章、	森口 孝司、
河瀬 貴、	西村 真、	長谷川義智、	田中 論、	角 善晴、	高松亜寿妙、	高橋 伸夫、
鎌田 裕之、	中楨 利明、	京井 直輝、	小山 直美、	小林 将之、	清水 智美、	川岸 大介、
岡杖 孝一、	菅澤 伸浩、	柳澤 英敏、	加藤 正喜、	西田 裕美、	布施 隆治、	小松 洋、
杉渕 ゆい、	新垣 聖也、	金 雅裕、	石川 泰弘、	富田 健、	三橋 大介、	水野 護、
松本 充裕、	大川 正裕、	金濱 昂、	佐藤 賢策、	大熊 拓児、	五條 智久、	平木 祐子、
吉藤真一郎、	伊藤 勇二、	古屋 浩、	古屋 陽子、	池本 博信、	浅井 信之、	佐々木貴昭、
長谷川真美、	佐藤 有紀、	伊藤 誠、	石橋 潤一、	垣本 優太、	出野万里絵、	柳田 剛弘、
柳澤 知行、	古谷 聡紀、	柴田 隆、	小路 祐樹、	和智 宣行、	北中 嵩、	須野崎龍一、
山本 佳代、	中田 匡紀、	田中 和彦、	山口 雅史、	鎌田真奈美、	佐藤 治夫、	高橋 忠和、
濱口 翔喜、	池戸 幸一、	阿部 孝輔、	阿部 孝輔、	山本 秀二、	川田 拓磨、	根本 尚洋、
大畠 優衣、	田中 邦和、	永井 秀雄、	北村 康之、	大鶴 光信、	趙 岳人、	高木 伸能、
中原 大悟、	古館 暢之、	前畑 康生、	渡部和己男、	檜物 聖、	中島 裕矢、	花井 快哲、
森川 康之、	伊藤 暢子、	新居 英樹、	齊藤 利江、	梅田 初志、	草野 和晃、	大畠 優衣、
新島 光起、	齋藤香子、	佐藤 恭一、	伊藤 浩二、	總山 雄一、	千葉 将明、	前川 良太、
木村 秀行、	島 裕子、	新井 陽彦、	川口 淳一、	磯部 雅仁、	村松 司、	辻田 栄子、
浅野 専一、	浅野 専一、	浅野 専一、	浅野 専一、	川西航太郎、	猪原 英次、	山内 幸雄、
Roberts Tyson、	花尾 一好、	宮部 俊行、	宮部 俊行、	酒井 知子、	酒井 知子、	
平野 克彦、	永山 哲男、	古川 敦之、	川岸 鈴也、	近藤 将人、	山田 晃子、	池本 章、
三浦 基嗣、	宇野 健一、	安達 瑛、	西村 信彦、	小沢 進一、	安田 善之、	近藤 理子、
高橋 和男、	岡田 大介、	吉田 潤、	岡田 大介、	浜洲 一弘、	浜洲 一弘、	西田 慎一、
柳内 幹王、	吉野 恒男、	大川菜穂子、	沼山 雅美、	秋山 亘、	高橋 治孝、	楠 孝幸、
別府 正幸、	石川 宏史、	下山 祐輝、	中津 佳行、	尾崎 隆弥、	竹山 康宏、	西川 博樹、
白取 悟、	木谷 智子、	山田 慶、	吉松 高弘、	作村 守央、	伊藤 洋輔、	萩原 博、
大尾 泰裕、	須貝 孝一、	後藤 志真、	加納 康史、	西野 敬三、	志村 修、	川島 雅弘、
山本浩仁郎、	青木 譲、	岩河 大介、	加藤 聖紀、	辻本 幸夫、	下田 圭志、	武田 真、
堀川 誠、	西山 博章、	大和 隆史、	大保 雅人、	澤田 和幸、	永田 清雅、	佐々木貴昭、
河野 米子、	杉村 政彦、	鈴木 崇史、	小川 直希、	松本 貴佳、	阪本 寛、	馬場 祐輔、
有賀 浩子、	織田健太郎、	吉田 容子、	安藤 竜也、	織本 幸、	渡會 康、	笹村 清次、
金森 茂雄、	山崎 恭子、	古矢 光範、	橋口 達志、	高橋 佳靖、	近藤 毅、	菊地 麻里、
数井 孝、	尾形 元、	吉田 誠、	菅原 里恵、	櫻井麻理子、	丸地 肖幸、	宮部 俊行、
山中 理、	三浦 由美、	小原 良太、	高橋 裕、	八巻 孝一、	松本 貴佳、	松村 厚、
松村 厚、	古本 義光、	小澤亜希子、	三橋 大介、	幸田 哲、	福本 育夫、	佐野 稔、
清水 伸二、	唐津 基明、	竹内 修一、	杉 誠、	中野 滝也、	赤堀茉莉香、	赤堀茉莉香、
中越 将通、	木場秀一郎、	小野川和延、	森 賢二、	瀧上 敦至、	岸本 麻美、	塩原 清、
本間 晃、	長田 幸雄、	西川 浩、	松井 啓、	三浦 一二、	斉郷美保子、	鈴木 貴博、
賀野 守雅、	山本 徳房、	鷺尾 松枝、	高橋 徹、	神 江里、	吉田 達哉、	立石 武志、
山口 大輔、	吉田 久子、	小島 純也、	遠藤 麻子、	山村 喜之、	田中 公雄、	森 隆幸、
鳥越 茂、	引地 大介、	鈴置 真央、	角田勇太郎、	宮部 俊行、	清水 尚子、	鈴木 郁雄、

川端 洋子、松本 正司、久富 弘基、山本浩仁郎、田島 稔章、眞鳥 利郎、早野 直子、
森田 雅久、島田 由加、村上 典久、吉田 誠、小宮 裕之、長野 耕仁、東郷 一紀、
吉田 奈央、兒玉 尚志、永坂 剛彦、織本 幸、安次嶺 晃、山元 孝亮、今川 征治、
木下 奈巳、木下 奈巳、木下 奈巳、石島 綾乃、小野 翔、矢部 睦子、巻口 祐樹、
藁科 昌利、鈴木 敏幸、近藤 順一、板浦 聖、宇野 健一、阿部裕美子、吉富 雄治、
以倉 一美、川崎 真、佐久間 一浩、渋谷 和久、佐藤 浩一郎、永田 幸彦、川端 美和、
三澤 忠雄、大西 まり、寺尾 基、山本 俊信、内田 正治、平手 亮次、以倉 一美、
金沢 寛、真田 景二、新井 伸昌、鈴木 一成、吉永 吉徳、片山 友子、金子 智絵、
藤原 弘道、森田 アヤ、馬場 直佐、石村 満、北村 朗裕、佐々木 芳子、森 あけみ、
中畑 良、舛田 譲二、小高 徹、鬼頭 和也、神 江里、横田 政人、名倉 宏之、
西田 正樹、吉田 誠、上田 信行、下地 力、高柳 惣次、小林 善範、小林 善範、
市来 政昭、寺田 昌弘、小畑 直紀、関根 達也、松本 剛、鬼頭 稲子、君山 訓嗣、
渡辺健太郎、成澤 彩、浅賀 泰夫、浅野 専一、仲吉 勇喜、大橋 昇、藤木 慎、
蓮沼 誠、箕浦 俊之、杉本 年光、藤丸 真、月村 政信、伊藤 賀一、鴨田 和広、
山村 喜之、岩田 正敏、丸山 篤志、田野 真二、小野澤 勝、芦田 博文、田中 康子、
遠田 将史、熊谷 敦史、大畠 隆、極原 真二、鈴木 聡、船渡 寛人、中尾 彰良、
大村 典和、内山 美和子、河原 夏樹、古賀 俊子、鈴木 聡、船渡 寛人、中尾 彰良、
本間 誠二、足立 悠也、羽田 善彦、村上 千恵子、伊藤 康伸、鈴木理津子、佐藤 靖彦、
小島 朝雄、浅野 優樹、牛込 直臣、河野 真人、真砂 佳代、野口 昌義、渡部 秀喜、
寺川 千栄、安川美代子、鈴木 信義、岸田 智和、門 哲史、樋口 正明、原田 奈美、
西尾 健太、松原 博、吉田 眞二、神矢 孝一、山本浩仁郎、吉成実千代、古本 義光、
糸林由加里、北島 優介、宮部 俊行、田畑 富美子、志久 旭、岩崎 雅弥、田中 保好、
神代 卓見、重松 佳奈、田口 之康、太田 智之、廖 明清、前田 雄一、恒川 敬史、
恒川 敬史、森 淳二、下條 信幸、小林 洋、内山 克己、矢萩 敏郎、坂上 哲可、
小林 俊一、地蔵 純子、上家 博一、大堀 洋一、伊藤 裕子、富田美智子、山本 莊太郎、
鹿島 栞、芝村 篤、村松 雅夫、神原 健朗、菅原 知彦、長澤 裕、森実 和樹、
松村 隆之、鈴木 智晴、戸井田 博、成島 勝彦、内川 文男、高久 進、山本 哲也、
山本 哲也、志村 研二、岡部 憲士、横山 賢次、佐藤 笑子、柳本 道夫、麻岡 誠司、
児島 一樹、渡辺 美紀、福島 栄一、松野 功行、石嶋恵津子

公表希望者

674 名 12,970,100 円

非公表希望者

3,254 名 47,133,510 円

計

3,928 名 60,103,610 円

多くのご支援を頂き、

誠にありがとうございました。



平成 29 年度基金を活用した事業

～第九のまちづくり事業～

- ◆学校のチャイムのメロディを第九のメロディに変更
小学校 2 校、中学校 2 校
323,481 円

- ◆清水町第九文化継承事業報償
第九関連事業助成…展示会、ミニコンサート等
第九実行委員会と協議を行い、事業を展開していく。
295,047 円

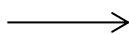


おわりに・・・

～災害復興について～

平成 28 年の台風 10 号被害から、日々の暮らしに苦労しつつも復旧復興に向けて着実に歩みを進めて参りました。町内各所の被災箇所の復旧が進む中、平成 29 年 10 月 28 日に国道 274 号日勝峠が復旧、通行が可能になりました。日勝峠の開通にあたり、通行再開記念セレモニーが開催されました。

また、平成 30 年 5 月、被害によって倒壊した清美橋・小林橋の復旧によって、台風災害から 1 年 9 か月ぶりに国道 38 号線が全線復旧しました。通行止めの町道はまだいくつかありますが、ひとつずつ元気な姿に戻ります。



台風 10 号によって崩壊した清美橋

～清水町いしきふるさとづくり寄附の今後について～

平成 29 年 10 月 1 日より、返礼品の全面リニューアルを行いました。リニューアルに伴い、返礼品の内容容量が変更となりました。ふるさとチョイスからのお申込みについても、お申込みフォームの改修を行い、1 回のお申込みで特産品を複数選択できるようになりました。今後、特産品の見直しやパンフレットのリニューアルなどを行う予定です。

また、お申込みやお問い合わせの際に、応援のお言葉を頂きありがとうございました。「清水町出身なので応援したい!」「アイスホッケーで盛り上げて下さい!」「遠くの地から応援しています。」「1 日も早い復興を祈っています。」など、心温まる応援メッセージに日々励まされております。皆様からのご支援を本町の発展に繋げられるよう、基金の活用方法に関してあらためて力を入れて取り組んで参ります。

QRコードリーダーをお持ちの方は、下記のQRコードから読み取ると清水町地域ページに移動できます。インターネット環境をお持ちでない方は下記までご連絡ください。



北海道清水町役場 企画課 統計企画係
〒089-0192 北海道上川郡清水町 4 条 2 丁目 2 番地
TEL 0156-62-2114 FAX 0156-62-5116
E-mail : ki-furusato@town.shimizu.hokkaido.jp
清水町HP : <http://www.town.shimizu.hokkaido.jp/>

平成 30 年 6 月より、本町での新たな取り組みとして「清水町公式 Facebook」を開設致しました。ふるさと納税の特産品紹介や本町でのイベント情報など、まちづくりに関わる事柄を載せています。懐かしの故郷の今の様子や、変わりゆく景色などをお楽しみ頂けると幸いです。リアルタイムな清水町の姿を、是非一度ご覧ください。

「清水町公式 Facebook」へは、下記のQRコードを読み取るとページへ移動できます。



左のQRコードからページへ移動します

北海道清水町



で検索

【町公式ホームページはこちら】

<http://www.town.shimizu.hokkaido.jp>



